

第5回就職氷河期世代支援の推進に向けた全国プラットフォーム

配布資料

一般社団法人ひきこもりUX会議
代表理事 林 恭子



当事者のニーズとは

困難に直面した場合に相談先に求めること
(対象は40～64歳の「広義のひきこもり群」である86人)

複数回答での割合の上位6つ

無料で相談できる	27.9%
<u>相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある</u>	① 27.9%
<u>誰にも相談したくない</u>	② 23.3%
匿名で相談できる	22.1%
相手がカウンセラー等心理学の専門家	20.9%
相手が医師	20.9%

①当事者同士の出会い、交流の場である居場所、当事者会が必要。だが、あまりに少ない。

②相談の場で傷つけられる、理解されない。必要なのは支援者のひきこもりの理解と対応を学ぶ研修会だが、内容を大きく変える必要がある。

※本日の資料「就職氷河期世代の就業等の動向」資料1を転載。

女性のひきこもり

15～39歳女性は45・1%
40～64歳女性は52・3%で、
半数を超えた。

出典：内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度)」



2022年7月 「ひきこもりUX女子会in表参道」の様子

課題:

- ひきこもり女子会参加者の7割以上が、「男性が怖い」「男性が苦手」と回答しているが、女性に特化した支援、配慮した支援がない。
- ひきこもり女子会や女性向けの支援に対して、自治体職員の理解が進んでいない。
- 女子会を自ら立ち上げたい人への協力が得られない。

ひきこもり支援に求めること

段階に応じて多種多様なサービスが必要

第1フェーズ

- 生きようと思えること
- 自己肯定感の回復
- 仲間と出会いたい



- とにかく話を聴いてほしい
- 当事者会、居場所

第2フェーズ

- 一歩踏み出してみたい
- 新しいことをしてみたい
- 専門家に相談してみたい



- 相談、アウトリーチ
- 当事者向けの連続講座
- 支援団体とつながる

第3フェーズ

- 短時間で働いてみたい
- ボランティアをしてみたい
- 生活を立て直したい



- サポステ、ハローワーク
- 自治体の窓口での相談
- 地域とのつながり

”

2019年にひきこもりUX会議が実施した実態調査では、6割の当事者が「働きたい」と回答。

そのために必要なのは、
当事者会・居場所への直接的な支援と、
支援者向け研修会の刷新、そして地域・
社会の理解促進です。